

NPO法人 相馬フォロアーチーム ニュースレター * 10月号 *

2015

Vol.05

発行日 平成27年10月1日



さわやかな秋晴れが続く今日この頃、皆様いかがお過ごしでしょうか。相馬では梨が食べごろを迎え、各地でお祭りが開かれたりしています。

ニュースレター10月号では、「駅伝大会」、「豪雨被害」、「スタッフのコラム」などについてお伝えします。



▷ 相双地区駅伝大会が開催されました！！

9月2日に中体連相双地区駅伝大会が南相馬市原町区の博物館の周辺コースで開催されました。それまでは雨の日が続いて寒いくらいでしたが、当日は天気も良くなり、さわやかな秋晴れとなりました。生徒たちは沿道の方々からも声援を受けて、日頃の練習の成果を発揮できたようです。フォロアーチームが訪問している中村二中と磯部中も10月の県大会に出場します！



▷ 豪雨被害

台風18号の影響により、9月10日の夜から福島市と相馬市を結ぶ主要道路である国道115号が、近くの川が増水した影響で、約100メートルにわたり道路が崩落しました。さらに、他の場所でも路面に土砂が流れ込み、一時期、約15キロ区間が通行止。その後、1週間ほど一部通行止が続きましたが、9月17日から一部片側通行の箇所があるものの、無事通ることができるようになりました。

しかし、道路沿いの川で未だに大木が横たわっている光景を目にすると、今回の豪雨の爪痕の大きさを感じます。

また、世界の医療団の方々の活動にも影響を与えています。道路の全面復旧には数か月かかるとのこと。しばらくはご不便をおかけします。



▷ スタッフのコラム④「やわらかな“かさぶた”」

学校の先生方に異動はつきものである。ここ相馬で津波の被害を大きく受けた地域の学校でも各校で先生方は多少なりとも入れ替わっている。しかし、震災後5年目を迎えた現在もなお、同じ学校で震災前から子どもたちの姿を見守り続けるA先生がいらっしゃる。

そんなA先生に、ある時期、職務上、震災について振り返らなくてはならない機会が訪れた。その準備の最中、A先生は「“やわらかなかさぶた”にしていたかったけど、そうはならなかった…」と苦笑して語られた。さらに、「なんか…“かさぶた”を無理やり剥がされた感じ」とつらい心情を吐露された。A先生の“かさぶた”は、まさに震災で負った心の傷跡であり、A先生にとって震災を意図的に思い返すという作業は、まさに震災を再体験するような過酷なものであることの比喩であったのだ。

しかし、A先生のすばらしいところは、つらい記憶を思い出しながらも、ご自身の役目を「（地域の方々を）つなげる役割」だったのではないかととらえるに至った点にある。まわりの風景が以前の面影がほとんどない状況になっても、以前と変わらずに残っている学校。そして、その学校で震災以前と変わらぬ笑顔で出迎えてくださるA先生の姿に安堵された地域の方々は少なくないのではないだろうか。

地域のコミュニティが震災以前とは異なる様相を呈していても、学校が“児童が通う場”という存在であるだけでなく、地域のコミュニティの象徴であり、人々をつなぐ拠点となり続けていることに大きな意味を感じた。学校という場が地域のコミュニティに与える安心感は、A先生のように、先生方が地域の多くの方の死という現実に向き合い、悲しみや苦しみを抱えながらも地域とのつながりを大切にされてきた積み重ねの上に成り立っているのではないだろうか。（今井）



* 訪問活動日 *

相馬フォロアーチームでは、カウンセラーが児童生徒の心のケア活動、教職員や保護者への相談活動を行っております。

場所	9月の訪問日等
中村二小	1,2,8,9,15,16,29,30日
中村二中	1,3,8,10,15,17,24日
磯部小	3,9,17,24日
磯部中	7,14,28日
日立木小	28日 (世界の医療団からの派遣)
山上小	8,28日 (世界の医療団からの派遣)
アート・メゾンでの相談等	45件



* お問い合わせ先 *

お子さんのことで、ご心配なことはありませんか？

相談室にて、無料の相談を承っております。下記までお気軽にご連絡ください。

〒976-0042

福島県相馬市中村2丁目2-15

LVMH子どもアート・メゾン

Tel: 0244-35-6200 / Fax: 0244-35-6215

Mail: sft@soma-ft.org

HP: <http://www.soma-ft.org/>

